

知財部門の生成AI変革：オムロンと島津製作所に学ぶ戦略的トランスフォーメーション

現状の課題とAIによるパラダイムシフト



AIの登場



オムロン：文化醸成とセキュアな基盤による全社的DX

自発的な意志（WILL）を原動力とする「AIZAQ」

経営難の危機感を配下に、用意や権限を問わず自発的に手を挙げた社員がフラットなチームで課題解決に取り組む組織エコシステムを構築。



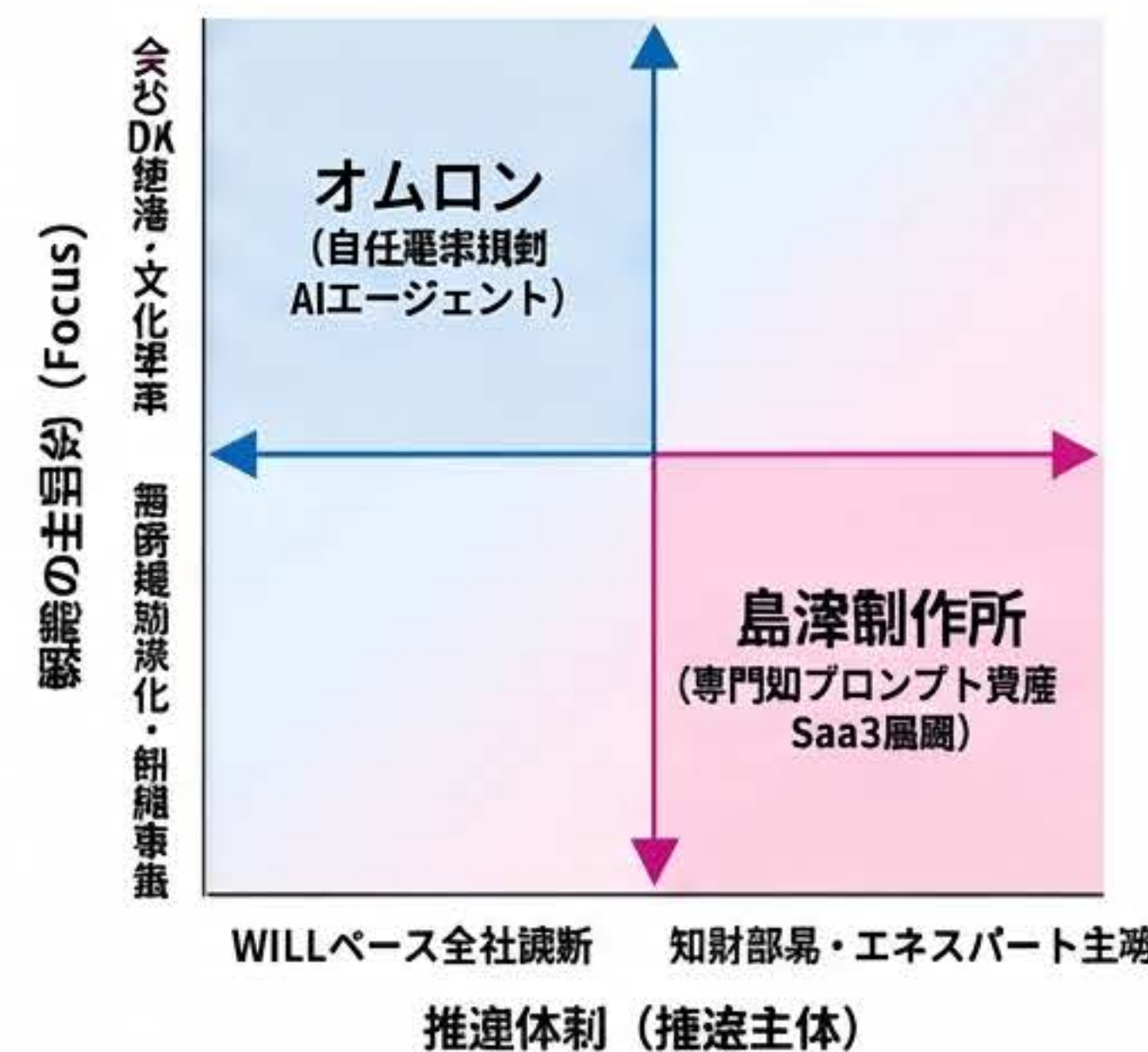
閉域ネットワークによる 軍事レベルのセキュリティ

AWS Direct Connectを活用し、社内LANと連繋した閉域環境でAIを構築。未公開の機密情報や機密データの漏洩リスクを物理的・論理的に遮断。

知財定型業務の 約8割をプロンプト化

特許調査、特許審査権利化、拒絶理由通知の整理など、広範な業務をAIに任せることで、戦略的な活動へのリソースシフトを実現。

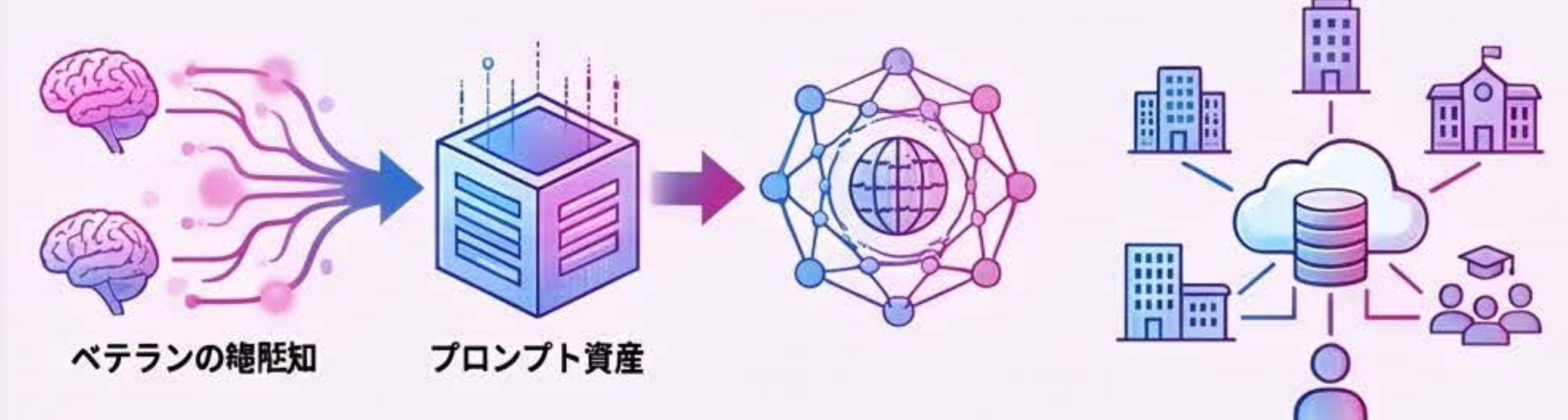
戦略的ポジショニング比較



島津製作所：専門知の資産化とビジネス展開

年間8,000万円のコスト削減と業務の超高速化

ベテラン職員の高速な提案ノウハウや判断ロジックをプロンプトとして構築し、組織の共有資産へ変換。



年間8,000万円の コスト削減

外部委託費の削減に加え、夜間数ヶ月を費した拒絶理由分析をわずか「2時」に短縮、FTO調査時間を最大90%削減。

知財AIプラットフォーム 「Genzo AI」の外販

社内で磨き上げたプロンプト資産をSaaS化し、中堅・中小企業や大手向けに提供することで、知財部門を「プロフィットセンター」へと転換。

知財AI導入に向けた4フェーズ・ロードマップ



フェーズ1：セキュリティ基盤 確立と業務継続性

閉域ネットワーク等のセキュア環境を構築し、AIが得意な定型業務と人間がすべき判断業務を切り分ける。



フェーズ2：パイロット運用と 成功体制の創出

ベテランの専任プロセスをプロンプト化し、「AIで業務が楽になる」というクイックウィンを組織に示す。



フェーズ3：組織文化の変革と ナレッジ共有

成功・失敗事例をオープンに共有する文化を醸成し、会社員のAIリテラシーを「AIディレクター」議へ引き上げる。



フェーズ4：法的リスク管理と 戦略業務への完全シフト

人間が最終確認を行う「Human-in-the-Loop」を確立し、預いた時間でIPランドスケープ等の高度な戦略業務に専念する。